

令和 4 年度

事業所名： 介護予防施設 西光荘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	令和4年9月4日	評価結果市町村受理日	令和4年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・西光荘は県内で唯一、天然温泉を入浴サービス提供している施設です。 ・四季を楽しみながら天然温泉に浸かり、体調の改善にも繋がり、安心して生活を送って頂けます。 ・開業してからまだ看取りまではいってないが、重度化した利用者様を訪問診療の先生と相談しながら、可能な限り介護サービスを提供しています。 ・専任の看護師により利用者様の体調管理をすることで、安心して過ごせるようにしています。 ・コロナ禍の中でも分散し、少人数でも行事を楽しんで頂けるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山林や放牧地に囲まれた四季の変化に富む自然豊かな環境に立地し、敷地内の同一法人の温泉施設を効果的に活かして運営されている。コロナ禍により、長年続いている地域の小学生との交流が中止、延期となるなど外部の方々との交流の機会が減少している反面、棟続きの小規模多機能ホームと連携して、近隣公園などへのドライブ、本人及び家族の希望に応じて一時的に自宅で過ごす「逆デイサービス」やリモートを活用したレクリエーションを取り入れている。日替わりのレクリエーションのほか、夏祭りやミニ運動会、敬老会などの行事を再開し、毎月配布の広報誌に活動の様子や生活状況を家族にお知らせするなど、丁寧な情報提供に努めている。10月には100歳を迎える方の長寿のお祝い会に地元小学生との交流が予定されるなど、様々な制約がある中でもメリハリある生活を提供できるよう工夫されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナ禍にて)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない(コロナ禍にて)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎朝の申し送り後、基本理念、介護理念、介護目標を唱和、共有し実践に繋げている。 ・月2回の合同ミーティングでは、職員信条を唱和し目標に取り組んでいる。	基本理念や介護理念、職員信条を随所に掲示し、同一建物内の小規模多機能ホームとともに朝の申し送りや合同ミーティングで唱和している。言葉遣いや挨拶など支援に直結する職員信条は、相互に注意や気づきを促すようにし、日常的な問いかけやコミュニケーションの推進に繋げている。また、昨年度から職員個々の目標、スローガンを募り、社長表彰も設け職員モチベーションにも反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍の影響の為、地域との交流が減っている。 ・ボランティアスクール等が中止になったが、小学生よりDVDが送られてきた。	コロナ禍前は、地域自治会の総会に社長が出席していたほか、事業所の紹介や説明の機会を持っていた。地域の西小学校児童による踊りや寸劇の交流は継続しており、10月に事業所に訪れる予定としている。地域の文化祭への利用者の作品を出品するほか、近隣の福祉事業所(森の里)とは避難場所や温泉の供給などの面で連携を図っている。地元の酪農家でもある運営推進委員の会長より乳製品の差入れなどをいただいている。地元西小学校児童との交流は継続しており、10月にも来訪が予定されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員が町民を対象とした「湯ったりサロン」、「貯筋講座」で血圧測定や健康に老いることの大切さを知ってもらう。 ・町民文化祭へ作品参加。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。今年度は5、7月に開催出来、行政・地域・ご家族代表等の各委員より助言や意見を頂き充実した場としている。9月も開催は予定しているがコロナの状況による。	自治会役員や町担当課職員のほか、利用者本人、家族代表を含め9名で構成され、コロナ禍ではあるが昨年度から対面による委員会を開催し事故報告、ヒヤリハット事例、行事計画等の報告のほか、外部評価の説明・自己評価のあり方や人材確保・夜勤勤務の状況など、多様な視点から活発な意見交換が行われている。委員の意見等は、転倒予防センサー、ナースコール、トイレ便座などの改善に活かされている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア会議、個別ケア会議に出席し情報共有と協力関係を築くようにしている。町の担当者と連絡を取り助言・指導を頂いている。事業所からも相談・報告は常に行っている。	町の第三セクターとして、施設関連も含め事業所の運営全般から苦情相談・指導助言などまで、町保健センターが窓口となっている。また、町診療所は、歯科を含め訪問診療に力を入れており、事業所との連携、協力体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	合同ミーティング時、身体拘束について定期的に検討会と内部研修を実施している。常に状況に応じ話し合い日頃の介護に取り組んでいる。身体拘束をしないことへの理解はできているが利用者の安全を考えると不安がある。	身体拘束廃止委員会を年4回合同ミーティング時に開催し、年2回職員研修を行いスピーチロックやドラッグロックについて職員の意識向上に努めている。オンラインで研修できる環境を活かして職員が個々にスキルアップを図り、受講後にはレポートを作成して報告回覧し、組織的に自己啓発に努めている。入居者の各居室は鍵はない、玄関のみ防犯上の観点から夜間帯に施錠している。	身体拘束や高齢者虐待等へのさらなる対応が求められている状況を踏まえ、着手済の委員会の開催、研修会の定期的な実施に加え、身体拘束等の適正化のための指針を「グループホームにおける運営基準第97条」に従い、速やかに整備することが必要と考えます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時・排泄時等に身体観察を意識している。変化があった時は、看護師、ケアマネ、他の職員に報告し話し合い注意を払うように努めている。場合によっては社長に報告し内部研修に繋げるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回はミーティング時に内部研修を実施している。成年後見制度を利用していた利用者が1名いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時に利用者・家族に理解を頂けるようその都度丁寧に説明することを心掛けている。利用者・家族の話を聞き少しでも思いに近づけるように努めている。改定の際も速やかに報告し理解・協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にて家族懇談会は開催できていないが、面会や自宅に帰る時等に話を頂戴している。また定期的に電話連絡が家族からあるので、その時に意見を頂戴しているので反映するように努めている。生活状況を家族に報告するようにしている。	居室担当者の視点で毎月配布の広報紙に活動状況等を細やかに家族にお知らせしているほか、要介護認定申請や通院付き添い、ケアプランに盛り込んだ「逆デイサービス(日中を自宅で過ごす)」を効果的に活用し、適時家族とのコミュニケーションを図っている。家族懇談会は、夏まつりやレクリエーション等の行事に合わせて開催し、出席しやすいように工夫しており、今後新型コロナ収束後には再開したいとしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しく社長が就任したばかりなので、話を聞いてもらえるように図っている。 職員から意見・要望があれば、合同ミーティング等で話をするようにしている。	社長との個人面談を年2回実施しているほか、随時管理者との面談もできるようにしている。小規模多機能ホームと一緒に合同ミーティング時にも意見交換ができています。職員代表委員会が設けられており、職員で話し合った提案、要望などが職員代表を通じて社長まで上申されるシステムがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	クラスター発生により、一時的に負担を強いる体制になった。収束後は適正な配置に戻し、無理のない状態に努めている。皆、協力的に勤務している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を計画・実施。外部研修の機会があれば参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括ケア会議、ケアマネは個別ケア会議に出席し、他の事業所等と情報共有・交流を図っている。また相談の機会としている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望の本人・家族に対し管理者・ケアマネにより実態調査や担当者会議にて各々に話を聞き困っている事・要望等に耳を傾け不安を軽くするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望の本人・家族に見学や体験をして頂き、西光荘の雰囲気や職員を見て知って頂くことを勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化に伴う事故防止に努め、本人が出来る事出来ない事を確認しながら、自主性を尊重しながら必要に応じた支援をするように努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を発見するようにしている。洗濯物畳み、食器吹き、新聞畳み等を自分の役割・日課にして頂く。時には他の利用者の簡単な見守りやお世話をする様子も見られ支え合う関係を築いてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても利用者の活動・生活状況を月1回お知らせしている。また変化があった日は随時、連絡・報告している。通院は基本的家族にお願いし対応してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも開催された町民文化祭に作品展示し、見学に行くようにしている。	訪問診療の医師が事業所を訪れているほか、本人、家族の希望で「逆デイサービス(日中を自宅で過ごす)」で自宅で過ごして来られる方もいる。月1回床屋が訪問、正月前などに美容を希望する方には家族が対応している。また、利用者が創作した絵画作品を町民文化祭に出展し見学にも出掛ける予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を鑑みながら席替えをしたり落ち着く雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域包括ケア会議で転所先のケアマネに様子を伺ったり情報を提供したりしている。また家族より相談を受けた場合は対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に声掛け会話をを行い、食べ物や歌、塗り絵等本人の希望や思いに添えられる様努めている。困難な時は出来ない事を説明したり別の方法を一緒に考えたりしている。	日々の活動の選択は、個々の利用者に希望を確認しながら、塗り絵、洗濯たたみなどの趣味や手伝いを行なってもらっている。半数程の利用者はスムーズに意思疎通ができるが、言葉による意思表示が難しい方には、視線や仕草、行動の変化などから思いを読み取り、朝ミーティング時の申し送り等のほか職員間で口頭でも共有し、思いに沿った支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	通所を利用していた方が入所される事が多いので、本人の人柄や病状を把握し易い。また通所と同じ場所なので馴染み易いと考えております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態や生活状況を申し送りやミーティングで話し合い、支援記録や申し送りノートで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りや合同ミーティングで利用者動向から課題と対応について話し合い、ケアの見直しに反映するようにする。 利用者とのコミュニケーションにより、思いを受け止められるよう努めている。	入居時には介護支援専門員と介護職員とで暫定の介護計画を作成している。月1回のモニタリングを経て半年ごとに計画の見直しを行い、全職員が支援に関わるよう努めている。毎月、居室担当者が中心となり、生活状況を家族に報告するほか、状況変化の都度電話等で連絡している。多様なレクリエーションや機能訓練を考えており、特に医療面の支援は主治医からの指示、助言を受け随時計画を見直し、その都度家族に説明し、同意を得て計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務間のふとした瞬間や昼食後に関わりや気づきを共有して記録し職員全員に意識してもらっている。 利用者のちょっとした変化異変は看護師に相談し、疑問点や改善点を訪問診療や早めの受診に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が困難となっている生活状況を把握し、支援援助し、時には専門医への受診アドバイスをしている。利用者の行動変化が起きた時は家族と話し合い、逆デイサービスの提案をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な介護相談員の訪問があったがコロナ禍で中止になっている。理容師の散髪は利用者にとって癒しになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大体の利用者は金ヶ崎診療所に主治医になってもらい、月1回の訪問診療を受け健康状態を把握して頂き、必要な薬を処方してもらい、その後の状態を報告しています。必要に応じて専門医の受診、訪問歯科受診して頂いている。	入居前に他の医療機関をかかりつけ医としていた利用者也国保金ヶ崎診療所にスムーズに引継がれ、現在9名全員が毎月1回の訪問診療を受診している。新型コロナワクチン予防接種も同診療所で迅速に行われている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の全身状態の変化異変に気付いた場合は看護師に状態報告し必要な場合は、看護師の判断で受診出来る様な体制になっている。月1回の訪問診療時には必ず立ち会い、状態報告をし医師より指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、入院先の担当者と連絡を取り、経過の把握に努めている。退院時のカンファレンスにも出席、もしくはFAXにて退院後の支援計画の情報収集をし生活援助に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に認知症症状の重度化に伴い、身体症状が悪化した場合は必要に応じて、次のステップへ移行して頂くことを説明している。但し、ADL全介助であっても経口摂取が出来、他の身体症状がない場合は継続入居としている。主治医にも相談・指示を受けている。	入居時に、「重度化した場合における対応及び見取りに関する指針」に沿って、看取り及び終末期には対応していないことを説明している。そのため状態が変化し、看取りの希望がある場合には、主治医の判断を仰ぎ対応を判断している。また、病状急変時などには、看護師とともに随時主治医に相談し指示・助言を受けながら対処している。	グループホームにおける看取りに対する考え方の推移を見極めながら、終末期の介護サービス、重度化・看取りについて、職員の研修を重ね知識の習得を更に進めていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同ミーティング等、内部研修・オンライン研修を利用し急変時の対応について学習する機会を設けている。対応にあたった看護師が処置実践にあたった必要事項を教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となり年2回訓練を実施しているが、コロナ禍の為消防は電話対応のみで地域消防団の協力は得ていない。 自家発電機と蓄電器を合同ミーティング時に使用し、いつでも対応できるよう準備している。	ハザードマップ上のリスクは無いものの、車イスによる避難の必要性もあり、災害等有事には見守りや避難対応など、地域消防団の協力が得られる関係にある。小規模多機能ホーム職員とともに夜勤職員2名体制にあり、夜間の避難経路に沿ったセンサー灯設置を検討しているほか、夜間想定訓練も実施予定である。年2回の訓練のほか、合同ミーティング時に発電機の始動等操作訓練を兼ねて実施している。食料品は3日分程度を常に備蓄し、用水は体育施設の和光ドーム脇にある地下水で対応している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員信条にある「言葉遣いは柔らかく丁寧にする」を心掛けて対応している。 つつい指示的な言葉遣いになってしまう場面もあります。	利用者の人格を損ねるような指示的な言葉がけや、強い口調になったときは、職員各自が申告するほか、言動を振り返りその時点で報告し注意や支援の交代を促すなど、相互にけん制合っている。また、異性介助を嫌がる利用者はいないが、予め入居に際し事前に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄介助はもちろんの事、思いやりのある優しい声掛けを意識して対応している。利用者の表情を見ながら会話対応している。時には必要に迫られ声高に声掛けしてしまうこともあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	併設の小規模多機能型との合同レクの参加・不参加や日々の作業等の希望を聞きながら個々の体調を鑑みながら各々のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方は本人の希望で、そうでない方は家族が準備してくれたものを着るようにしています。 衣替えは定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に応じた硬さ、大きさで自力摂取出来るように支援しています。上手く口に運べない方には声掛け説明をし手伝うようにしている。箸とスプーンを使い分けられるよう声掛けをしている。 山菜や刺身、手作りおやつを提供している。	管理栄養士の指導を得て献立を作成し、調理は専任の職員が行っている。昼食は基本的に法人内事業所で調理し、朝夕食は食材を買い物に行き、職員が作っている。山菜の時期には、職員が収穫してきてわらびのほだ取りを利用者が手伝っている。刺身のほか揚げパン、がんづきなど希望するメニューを手づくりで適時対応している。団子や餅の希望には、豆腐、ヨーグルトを混ぜたり、モチ米に長芋を混ぜて餅の風味を出すようにして、誤嚥に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成のメニュー(外部)に沿って調理。利用者各々の状態に合わせ食事量、硬さ、大きさ、トロミを付けている。水分摂取量は1回200ccを1日に5回提供するようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時に、口腔観察し自分で口腔ケア出来る方でも声掛けし、必要に応じて仕上げを介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る事を基本に、排泄パターンを把握し各々に合わせてトイレ誘導している。失敗しても排泄があった事を喜び合える雰囲気になっている。排泄用品は個々に合ったものを準備し、変化が見られた時は随時職員間で話し合い対応している。	排泄チェック表に沿って誘導している。自身でトイレに行かれる方は2名ほどで、オムツ使用の方もいるが全員トイレでの排泄を促し、自立に向けた支援をしている。ウオッシュレットを好まない方には陰洗ボトルを使用して清潔に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維摂取を基本におやつは乳製品や腸内細菌を増やす飲み物、水分補給を促している。腹筋を刺激する歩行に目的を持たせて援助している。便秘薬については看護師や主治医に相談・指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	天然温泉を提供している。見守りだけで入浴出来る利用者は少なく、血圧や身体状態により、シャワー浴、かけ湯、短時間入浴になっている。	床暖房がある小規模多機能ホームの大型浴槽を基本的に使用し、週に2、3回、午前中に複数の利用者が一緒に入浴している。温泉で長湯になる方もいるが、血圧などの体調や個々の希望に応じ時間を短縮するなどして対応している。入浴剤は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた馴染みの物を自宅より持参して頂いている。室温等に気を配り、寂しがり屋さんには、人の気配を感じさせる工夫が必要だと思い、居室を交換する事もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し、利用者の服薬の必要性を介護者に説明し、服薬の時間帯によっての効果や副作用に対してもアドバイスして、薬には名前と日付を記載し服用時には、職員間でも声を掛け合い間違えないように気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	目や耳から入る刺激を大切にDVD等を活用。併設している小規模多機能型と合同の季節行事に参加。洗濯物畳み、食器拭き等自分の役割だと手伝ってくれる利用者もいます。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えている。天気の良い日はドライブや西光荘の周りを散歩しています。	コロナ禍で、外出の機会が少なくなっている。天気の良い日は、施設周辺を1周散歩し脚への刺激を意識している。小規模多機能ホームと一緒に千貫石地区の紫陽花やはすの花の鑑賞等にドライブに出掛けているほか、利用者は日光浴を兼ねて施設で栽培している苺や茄子、トマトなどの収穫やプランターの花植えをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されれば応じられるが、現時点ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう飾り付けし、職員が撮った季節写真で季節を感じてもらっています。	各居室入口には、花の名前で造花、イラストや個人の写真が掲示されている。共有空間は床暖房が整備されているが、グループホーム側の浴室には床暖房がなく冬場は冷え、浴槽が利用者の方々が出入りするには段差があるため、現在は床暖房も整備されている小規模多機能ホームの浴場を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性に配慮し席替えを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室を基本としているので、本人が希望することは基本的に自由にしてもらっている。 馴染みの物、家族との写真等を飾っています。	ベッド、洗面台、タンス等が備え付けられている。使い慣れた寝具等を本人の希望で持ち込んでいる。絵画や俳句など利用者が製作した物などで装飾している。居室の清掃はほとんどの方が職員が行っているが、利用者自身で希望する方にはできる部分をやってもらっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名： 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており手摺も設置。トイレや居室が分かるようネームプレートを貼っている。車椅子等福祉用具を使用する十分な広さがある。小柄な利用者が多いので便座が低い便器を設置しました。		